InSEA

公益社団法人
日本美術教育連合
ニュース

No. １４３

２０１５．２

〒113-0033　東京都文京区本郷2-30-14　文京ビル206号
公益社団法人　日本美術教育連合
発行人　理事長　宮　坂　元　裕
ニュース担当　北　川　智　久
E-mail:kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

実践を積み重ねたあとで判ってくることもあります

公益社団法人　日本美術教育連合　理事長　宮　坂　元　裕

古い話ですが昭和22年の学習指導要領は義務教育９年間が132ページ１冊として出されました。表紙には（試案）と書かれていたので、あとから本案が出るものと思っている人たちがたくさんいました。しかしカリキュラムは本来教師自身が作るものであり、終戦直後「急には作れないであろうから文部省が試しに作ってみましょう」という意味であることがだんだんわかってきました。その後、学習指導要領は何回も改訂されました。

「改訂」とは欠点などを直しながら内容を改めていくことです。

日本のナショナルカリキュラムである学習指導要領は、基本的には未来志向型です。未来志向型とは「このようにすればこのようになるであろう」という型のことです。図画工作や美術の目標の中には「美的情操」の前後に豊かな、あるいは養うが付いていたのですが、最近は「…豊かな情操を養う。」と書かれています。本当にそうなるかは誰にもわかりません。しかしこの目標は現在でも続いているのです。戦前も盛んに使われた「情操」を「これは一体何だろうか」と考えているうちに図画工作や美術が考える情操という概念は育っていったのです。現在の小学校学習指導要領解説図画工作編では「美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心」となっています。たくさん実践を積み重ねてきた結果そうなったのです。

「情操を養おう！」と叫んできただけでは、こうはならなかったと思います。

これと同じように、授業を行う前に「楽しくやろう！」と叫んでも子供は何のことか分かりません。教師と子供が楽しいことをいっぱいやった後「ああ楽しかった」と思えることがたくさん積み重なって、「図画工作･美術は楽しいことだ」という「造形への関心･意欲･態度」は定着していくのだと思います。図画工作･美術の目標にある「喜びを味わう（い）…」も達成されたかどうかは「子供たちが味わった」と教師たちが確認できる実践が、たくさん積み重なった後で判ることだと思います。

公益社団法人日本美術教育連合　第５回　定時総会のお知らせ

日時　平成27年４月19日（日）　13：30 ～ 14：30　**会場**　聖心女子大学　400番教室
定時総会終了後　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　岡田京子先生の講演があります。
15：00 ～ 16：30　入場無料　どなたでも参加できます。

テーマ　美術教育の立場から
今の子供たちの姿を浮かび上がらせる

―資質・能力を共通理解するための円卓会議―

美術教育連合主催「造形・美術教育フォーラム」が、１月25日（日）午後２時より武蔵野美術大学新宿サテライトで行われ、57名が参加しました。参加者は、小・中・高・大の教員、美術館学芸員・ボランティア、画塾・造形教室経営者、その他でした。

最初に宮坂理事長から挨拶と円卓会議という名の下での進行について説明がありました。進行は、自己紹介のあと、文部科学大臣から中央教育審議会に提出された「諮問」文の中からキーワードを抽出する。その後、６つのグループに分かれ話し合いを行い、グループで話し合われた内容を全体に発表し、それを基に自由討論を行う、というものです。

今回のテーマについて、榎原運営委員から次のような趣旨説明がありました。

「昨年11月、文部科学大臣より、『初等中等教育における教育課程の在り方について』（諮問）が出されたところですが、私たちは、ややもすると中教審答申を待って対応するというのが、これまでだったと思います。しかし、私たちは、決して中教審答申を待つのではなく、諮問文を通して、何が課題になっているのか、何を問題視していくべきなのかなどを明らかにしてい

くとが大切かと思います。

そのために、造形・美術教育の実践を通して捉えている『今の子供の姿』を出し合い、それらを縒り合わせ、今日の課題とどう結びついているのかということを明らかにしていくことが必要と思います。

諮問の内容には、重要なことも多く含まれているようです。たとえば、「目標・内容、指導方法、評価の一体化」といったこととか、学習方法として、「アクティブ・ラーニング」が重視されていることなどがあります。

アクティブ・ラーニングとは、文科省用語集でも「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。」と言われています。造形･美術教育では、その目標に「表現や鑑賞の活動を通して」という言葉が含まれており、単に知識・技能を一方的に伝達しているのではないことは、周知のことです。そういう点では、美術教育は、常に、教育方法の核心部分であり、先進的な実践を行ってきていると思います。

何のために「知識･技能」を身に付けるのか､この問いは､造形･美術教育を行うものであれば、日常的な問題意識となっていると思います。

今、国際的な学力競争の下で、学力格差が進行し、「学びの空洞化」とか「学力の空洞化」というような現象も見られます。子供たちの芸術的な発達を欠いた学力競争に、警鐘を鳴らす人たちも出てきています。

このような状況の中で､子供たちは､「どのように生きたらよいのか」「どのように生きたいか」など自らの生きるべき価値を探求することが求められているのではないでしょうか。」

次に、諮問文の中から、４つのキーワード（「主体的･協働的に学ぶ＝アクティブ･ラーニング」「自ら課題を発見」「育成すべき資質･能力」「自己肯定感」）を参加者の挙手によって抽出しました。

参加者は６つの班に分かれ、自己紹介を経て、キーワードを基に20分間話し合った後、西村運営委員の司会の下に、各班の話し合いの内容が報告されました。

Ｂ班　アクティブ・ラーニングは図画工作や美術では今までやってきたのではないか。

Ｄ班　小学校で、専科教員は教科内容でアクティブ・ラーニングを考えている。しかし全科を受け持っている教員は図画工作だけの事とは考えていない。積極的ではない６年生を１年生の世話をするように仕向けたところ、その６年生は能動的になってきたことがあり、子供は自ら課題を発見すると能動的になることがわかった。図画工作特有の事ではない。資質・能力についても教科内容にかかわるものと、どの教科にも当てはまる、いわゆる「汎用的」なものがあり、両方とも大切ではないか。

Ｃ班　図工、美術では、アクティブ・ラーニングのもとに資質能力を培ってきたがが、今の子供たちは、違う方向に向かっているのではないか。型にはめる教育があるのではないか。

Ａ班　今の子供は触れ合わない。触れ合いの無さが問題である。他者がいることを実感していない。図画工作ではアクティブ・ラーニングが保障されているというが、本当にそうなのだろうか。

Ｆ班　アクティブ・ラーニングの本質は困難を克服して、克服できなくても楽しかったと自己肯定感を持たせるところにその良さがあるのではないか。

Ｅ班　図工・美術の教育では、教師が押し付けたり、教師主導にならないように努力している。子供が自己決定し、自分の事を自分から発信しなければならないのに発信する力が弱いように感じる。教師が型にはまっていて柔軟性がないからではないか。

司会（西村）　各班とも話し合いの時間が少なかったようですので、あと15分間、話し合いの時間を持ちます。

宮坂　話し合いの内容に不満だ。大きな工場で、マニュアルを独占すれば優位に立てると思い、取扱説明書を自分が読んだ後シュレーダーにかけ、その結果、危険に対する共通理解がなされず大事故を起こすというような「自分の事しか考えない子供」を私たちは育ててしまった。また、アメリカの調査では今の小学生が大人になるころには、今は存在しない全く新しい職業につかなければならない人が65パーセントいる、というデータがある。そのような急激な社会の変化に耐える「資質・能力」の育成が求められていくことを理解して話し合いを続けていただきたい。

15分間の話し合いののち、各班の話し合いの内容の報告と自由発言が行われた。

○　アクティブ・ラーニングということで図工・美術を見ると、何かを見失ってしまうのではないか。本質的にはアクティブ・ラーニングなのだが、実際はどうなのか。見直すことが必要だ。何が本来と実際と違うのか。阻害しているものは何か。

○　アクティブ・ラーニングは美術教育で行っているというけれど、全教科でアクティブ・ラーニングを始めたら、図工･美術はいらないことにならないか。図工･美術でできることは何か。

○　資質・能力として、子供たちに困難を克服する力を身に付けさせたいと思っている。個に応じると言いながら、教師は、子供が戸惑うとすぐ教えてしまい待ってあげられない。また、美的感覚を身に付けさせたい。困難を克服することによって考える力､判断する力を育てたい。

○　自分で考え、自己決定することは大切だと思うが、困難を与えることではないと思う。創造的であること、そのもとで資質･能力を育てることが必要だ。それがあるべき姿のアクティブ・ラーニングではないか。

○　美術教育で育てることは子供に「自分」という基準を定めることではないか。子供のアイデンティティをみとめ、コミュニケーションやコラボレーションをさせることだと思う。この時、教師はサポートする人になるのだと思う。

○ 「豊かな感性」を美術教育関係者は美術と重ねるが、美術教育以外の人たちは、ビジネスチャンスを見抜く感性、新しい商品を開発する感性だと思っている。そして美術とはアニメとゲームだと思っている節がある。したがって、「豊かな感性」にしても「アクティブ・ラーニング」にしても、何か疑いの目をもってもう一度考え直さなければならない。現代の多くの人々は「道具」とはコンピュータのことだと思っている。

○ 教科の枠組みでがんじがらめになっている。もう一度ハーバード・リードの考えに戻り教科とか学力の枠をはずして考えなければいけないのではないか。

○ 美術教育で行ってきているアクティブ・ラーニングを外に向かって発信しなければならない。

○ 言葉と実体験とが結びついていくことが必要と思う。今の時代、それが離れてしまっている。

○ アクティブ・ラーニングは「デザイン・シンキング」に近いのではないか。本当に必要と思うものはなにか、失敗してもよいからすぐに作ってみる。こんな解決ができるとわかったら、生産の仕組みを変えていく。すべての子供たちが、本当は何が課題なのか見つけていくこと。つくってみて課題が示される。ものを作り出すためには、多数の人がコラボレーションしていく。それが、教育のパラダイムを変えていくだろう。

山口理事　すばらしい会になった。この思いを、10月開催の「日本美術教育研究発表会」につなげていってほしい。

大坪理事　熱心に討議をいただいた。今、芸術・文学の教育が社会的に軽視される傾向のあるもとで、私たちは、子ども、親、学生に、もっとアピールをしていくことが求められている。私たちだけで話し合うのではなく、私たちの外にいる人たちに美術教育の大切さを伝えていかなければならないと思う。明日からすぐに実践していただきたい。

（文責　榎原弘二郎）

研究局より

2014年度研究局二大業務の報告

研究局長　山　口　喜　雄（宇都宮教育大学）

本研究局には、日本美術教育研究発表会、『日本美術教育研究論集』刊行の二大業務があります。前者第48回は結城孝雄運営委員の尽力により東京家政大学板橋キャンパスにて全役員の連携で計６時間余の発表会を実施しました。終了後、近隣会場にて40名余参加の懇親会で交流を深めました。後者は理論・実践研究、実践研究報告、研究ノート等で研究論集の年度内刊行をめざしています。

１．2014年度研究発表会は史上最多36組46名発表・100余名参加

第48回日本美術教育研究発表会は100余名の参加者により10月19日（日）に挙行しました。発表申込は55分間のモジュール発表３組を含む本研究会史上最多37組の計47名で、当日欠席の１名を除き実施されました。今回の発表等の特徴は、１）韓国・中国・メキシコ、北海道・秋田から愛媛・福岡・佐賀・大分まで、２）男性21・女性25名（54％）、３）60歳代から学部３年（21歳）、４） 小中高・特支が計８、非常勤を含む短大・大学が計24、美術館・行政が計３、院生・学部生・留学生が計11、５）フランス、スペイン、ギリシャ、韓国、内モンゴル、メキシコ、Melbourne、アメリカ等々の国名・地名が題目に付され、“InSEA-JAPAN”の名に相応しい多彩な研究主題で行われたことです。

第48回　日本美術教育研究発表会2014　　平成26(2014)年10月19日(日)実施

	発表会場　A	発表会場　B	発表会場　C	発表会場　D
1	フランスの児童・保護者・教師の協働にによってつくられた写真本の紹介 元・東京都公立学校 藤崎典子	簡単な玩具 構造物の造形活動を通した創意工夫とコミュニケーションの育成－RIDEF（プレネ教育者国際連盟）でのワークショップから－ 東京家政大学 結城孝雄	絵画鑑賞の授業構想における教科書分析と教材開発 福島大学大学院生 宮田彰史	造形教育における教授と学習の相互性 国学院大学栃木短期大学 名取初穂
2	スペインの初等美術教育におけるCLIL教育の研究－マドリッド自治州，ガリシア自治州，カタルーニャ自治州の現状－ 大分大学 藤井康子	美術教員志望生の専門的成長を促す彫刻作品鑑賞－「大田原市街かど美術館」での実践を通して－ 元・宇都宮大学非常勤講師 三上慧	アメリカとフランスの美術館における中学生・高校生向けの美術館・教育普及プログラムに関しての調査報告 国立新美術館 井上絵美子	子どもの美的経験における比喩的イメージの活用と課題Ⅲ－物語を生む意味の拡張と表現様式の関係に着目して－ 東京福祉大学 立川泰史
3	ギリシャのアテネにおける美術教育2014－第129小学校，インターナショナル・スクールISA，国立博物館NAMでの面談調査－	MITATE Workshopのデザインと評価－InSEA World Congress In Melbourne	オーストラリアの美術館における鑑賞教育－所蔵作品を活かしたスクールプログラム、東京国立近代美術館/放送大学/国立教育政策研究所/国立西洋美術館 一條彰子/大髙幸/岡田京子/寺島洋子	雨の日の空を表現する 東京家政大学 森田浩章
4	福島大学/宇都宮大学/滋賀大学 天形健/山口喜雄/新関伸也	東京福祉大学/千葉大学/群馬大学 手塚千尋/佐藤真帆/茂木一司		造形活動における知的障害児のコミュニケーション生起場面の分析 筑波大学附属大塚特別支援学校 森葉惠
5	美術教育におけるボケと遠近法の関係 佐賀市立昭栄中学校/中村学園大学 姉川明子/姉川正紀	造形教育におけるユーモアの意義と可能性 東洋大学 北澤俊之	米国における美術館教育の潮流から学ぶ 神奈川県立大和南高等学校 片桐彩	教育につながる「創造性」概念の解釈の検討－図画工作科を中心に，近年の美術教育雑誌を調査－ 宇都宮大学大学院生 施早織
6	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(16)－「国際化」と美術教育に関する考察 宇都宮大学 山口喜雄	歴史学習における造形活動の効果－ボックスアートを活かして－ 東京家政大学４年 鈴木佳那	五感に導くための鑑賞実践の工夫Ⅱ 秋田公立美術大学 尾澤勇	Vitality概念による協同的な表現活動の体験についての考察 福岡教育大学 笠原広一
7	アイヌ文化振興・研究推進機構出版助成図書『父からの伝言』と次世代ものづくり教育カリキュラム構想 北海道教育大学 佐藤昌彦	レッジョ・エミリアアプローチから導かれる授業の提案－集める・そろえる・並べる 日本の色を意識して－ 東京家政大学４年 高山理子	日本における図画工作研究の動機と受講による理解の変化－メキシコ教員研修留学生と中国内モンゴル私費留学生の視点から－ 宇都宮大学研究生 Maria del Rosario Escobar Garcia/春林	幼児の『かく』と『あそぶ』－線と面についての一考察－ 鶴見大学非常勤講師 馬場千晶
8	「みること」を軸とした図画工作科カリキュラムの作成①－造形活動における「子どもの姿」の分類からカリキュラムを検討する－ 東京学芸大学 西村徳行	「○○から広がる世界」実践の効果－子どもの発達段階とイメージを中心に 松山市立石井北小学校 木村早苗	描画に表れる空間認識力と色彩表現についての研究 埼玉県立越谷西特別支援学校 小野恵	図画工作にかかわる教育実習の可能性－宇都宮大学教育学部附属小学校における教育実習Ⅱの事前準備と実践報告－ 宇都宮大学３年 吉澤友希/細田すみれ
9	韓国の新しい教育課程による小学校美術教科書 春川教育大学校 柳芝英		教員養成系学部における実践研究 玉川大学非常勤講師 直井崇	異年齢保育における「造形」のあり方についての考察 駒沢女子短期大学非常勤講師 小口僚
10	『理解をもたらすカリキュラム設計』における「解釈」「共感」の観点は美術教育を可能とするか 東京学芸大学 山田一美	図画工作科から中学校・美術科への『造形遊び』の発展と課題 豊島区立本町小学校/西東京市立保谷中学校 竹谷摩維子/清水信博	『教育版画』の形成と教育観についての研究概論－大田耕士にみる版画教育と人間形成－ 東京家政大学大学院生 中條秀憲	保育園における「造形教室」実践報告 宇都宮大学大学院生 金子優人

２．日本美術教育研究論集について

研究論集編集委員会委員長　小　林　貴　史（東京造形大学）

本年度発行を予定しています日本美術教育研究論集第48号では、昨年の研究発表会にて発表された中から27名の方の論文掲載を予定しています。その内訳は、Ａ群（理論・実践研究論文）が10名、Ｂ群（実践研究報告）が７名、そしてＣ群（研究ノート）が10名となっています。ご投稿された方々には、年末年始のお忙しい日程の中、ご協力いただき感謝しております。現在、年度内に皆様のお手元に届くことを目指して編集作業を進めておりますので、どうぞご期待ください。

事業局より

美術教育におけるアクティブ・ラーニングの形
美術教育力養成講座　第２期１次 「子どもと造形表現」終了

事業局長　水　島　尚　喜

平成26年８月27日、28日の両日、連続講座「―子ともと造形表現―（全８回)」が、盛況に開催されました。講師と参加者の熱意も相俟って、造形美術によるアクティブ・ラーニングが多様に展開されました。

平成27年度も、ほぼ同時期に同内容で開催が予定されています。皆様、どうぞふるってご参加ください。

奥村先生の熱血レクチャー「はい、どうぞ！」

茂木先生のレゴを用いたワークショップ

西村先生のカードを用いたアート・ゲーム

小林、北澤両先生から美的プログラムを学ぶ

榎原先生のゲストスピーカー関口先生によるお話

宮坂理事長から「修了認定証」の授与

■InSEAが後援する国際会議の案内

１．ヨーロッパ国際会議

Risks and Opportunities for VISUAL ARTS EDUCATION in EUROPE

（ヨーロッパにおける視覚芸術教育の危機と好機）

会場：リスボン　　**会期**：2015年７月７～９日

本会議における口頭発表、ポスタープレゼンテイション、ビデオプレゼンテーション、パフォーマンス、美術教育に関する作品やインスタレーションの展示、バーチャルポスターなどを、2015年３月１日まで募集している。

https://arteducation15.wordpress.com/

２．USSEA地域会議

AN INCLUSIVE WORLD: BRIDGING COMMUNITIES

（解放された世界、コミュニティーを繋ぐ）

会場：ニューヨーク、クイーンズ美術館　　**会期**：2015年７月17～19日

USSEA（The United States Society for Education Through the Art）は、国際美術教育学会（InSEA）と全米美術教育学会（NAEA）の提携によって1977年に設立された団体で、カリキュラム開発や美術教育や文化についての指導研究を行っている。今回は、教室や美術館、芸術組織のコミュニティーにおける美術教育について検討する。発表申し込み2015年３月31日。

http://www.aninclusiveworld.com/2015ussearegionalconference/

■ニュース記事より

１．ユネスコNGO国際会議の開催

2014年12月15～17日にユネスコNGO国際会議が開催された。会議の結論としてだけでなく、後援者や聴衆からの意見としても、質の高い教育、若者たち、文化遺産保護、水、持続可能な開発、環境保護など我々にとって重要なテーマ全体を通して、「確信させ変化させるために、総てを動員し、意識を高めること」は、共鳴する言葉となった。

２．第２回キッズフェスタinチュニジアの開催

開催者の一人は次のように語っている。「このようなイベントが大切なことは、どこにでも存在し、各地域のコミュニティーに訴え、現在の世界中の子どもたちを結びつけるグローバルな象徴的活動として作り上げることである。芸術は広い視野とすべての背景を持つ人々との対話に貢献する要素である。」

今後は、次のようなキッズフェスタが予定されている。

・第２回キッズフェスタinチュニジア　2015年４月26日
・第12回キッズフェスタinサラエボ　2015年６月12～16日
・第２回キッズフェスタinバンジャルカ、ボスニアヘルツェゴビナ　2015年６月19日
・第１回キッズフェスタinソフィア　2015年６月28日

公益社団法人日本美術教育連合　第４期　第３回理事会議事録　（内閣府提出仕様）

１．招集通知　平成26年10月29日（水）
２．開催日時　平成26年11月24日（月）午後１時30分～４時30分
３．開催場所　東京家政大学
４．出席した理事の氏名　大坪圭輔　水島尚喜　宮坂元裕　山口喜雄
５．出席した監事の氏名　北澤俊之
６．欠席した理事の氏名　郡司明子（公休）
７．議事の経過の要領及び議案別議決の結果
定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。
第３回理事会議事録の確認を行った。
その後、直ちに議案の審議に入った。
第１号議案　山口喜雄理事より第48回日本美術教育研究発表会2014の運営について以下の報告があった。
開催日平成26年10月19日。会場、東京家政大学板橋キャンパス。発表申込件数37件（発表者人数47名）が無事に終了した。55分間モジュール発表は３件行われ好評であった。モジュール発表は改良の上、次年度も継続するという提案があり、提案について慎重審議の結果、第１号議案は全員一致をもって可決決定された。
第２号議案　事務局長よりホームページ開設についての中間発表があり、継続審議とした。
第３号議案　造形・美術教育フォーラムは発表予定者の都合で、発表不可能となり、いったん白紙に戻し、新しい提案を次回の理事会で行うこととした。
提案について慎重審議の結果、第３号議案は全員一致をもって可決決定された。
第４号議案　一般会員死亡に対する弔意の表し方について、現在のところ内規に規定がなく、暫定的に、「本連合に対する貢献度を勘案し、該当する者に対し、弔電を持って弔意を表す。意思決定は理事会に一任する」こととした。提案について慎重審議の結果、第４号議案は全員一致をもって可決決定された。

公益社団法人日本美術教育連合　第４期　第４回理事会議事録　（内閣府提出仕様）

８．招集通知　平成26年11月12日（水）
９．開催日時　平成26年12月７日（日）午後１時30分～４時30分
10．開催場所　東京家政大学
11．出席した理事の氏名　大坪圭輔　水島尚喜　宮坂元裕　山口喜雄
12．出席した監事の氏名　北澤俊之
13．欠席した理事の氏名　郡司明子（公休）
14．議事の経過の要領及び議案別議決の結果
定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。
第３回理事会議事録の確認を行った。
その後、直ちに議案の審議に入った。
第１号議案　前回白紙に戻された造形･美術教育フォーラムについて理事長より１月25日に開催。テーマは「美術教育の立場から子供たちの姿を浮かび上がらせる―「資質・能力」を共通理解するための円卓会議―」テキストは文部科学大臣から中央教育審議会に出された「諮問」とする旨の提案があり、慎重審議の結果、全員一致をもって可決決定された。
第２号議案　公益社団法人日本美術教育連合ホームページ開設について、事務局長より、業者の選択などが話し合われたが、結論に達せず継続審議となった。
第３号議案　理事長より、来年４月19日開催の定時総会後の講演会講師として、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官岡田京子先生に依頼したい旨の提案があり、慎重審議の結果、全員一致をもって可決決定された。
第４号議案　大坪理事より、InSEAの現状把握の説明があり、アジア地区評議員を中国が強く望んでいるとの報告があった。また、本連合の団体加盟については再加盟手続きを行うとともに、他の国内団体との調整が進行中であり、その作業を継続したいという提案があり、慎重審議の結果、全員一致をもって可決決定された。

事務局便り

公益社団法人　日本美術教育連合　発行

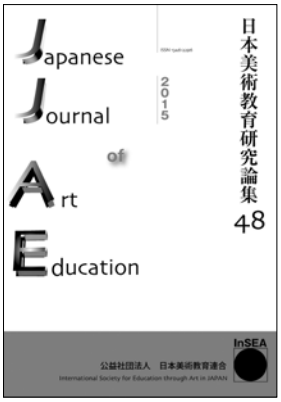
日本美術教育研究論集　第48号

2015年３月末日　発行します！

公益社団法人日本美術教育連合では、毎年「日本美術教育研究発表会」を、文部科学省の後援を得て開催しております。この発表会で提案・報告された美術・造形教育に関わる研究・実践の数々が１冊の研究論集となり会員の皆様および関係諸機関に届けられます。それが『日本美術教育研究論集』です。多角的・先進的な研究、日頃の実践に裏打ちされた貴重な報告などが１冊にまとめられた内容の濃い論集です。

本年度も昨年度に引き続き、年度末（2015年３月末日）に発行する運びとなりました。

どうぞ御期待ください！



デザインは若干変更される場合があります。

■平成26年度（2014年度）会費納入、ご協力ありがとうございました。

昨年10月の「第48回日本美術教育研究発表会」、本連合主催の造形・美術教育力養成講座、１月に武蔵野美術大学新宿サテライトでおこなわれた造形美術教育フォーラム等の開催により、それぞれ大きな成果をあげることができました。

本年度も、会員皆様のご理解とご協力を多く受けることができ、会費の納入状況が改善されました。しかしながら、まだ納入いただいていない会員もいらっしゃいます。是非、ご入金の協力をお願いします。尚、**３年連続会費未納入の会員は「退会」**という対応をいたします。

今年度より、西村前事務局長より業務を引き継ぎましたが、まだまだ不慣れで会員の皆様には、ご不便・ご迷惑をお掛けしております。来年度に向けて、事務局を充実するように努めてまいりますので、何卒、ご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。

未納の方は！

平成26年度会費　6,000円　を納入してください。
日本美術教育連合　郵便振替　００１７０－１－８６０３６
＊納入期限：平成27年３月12日（木）（本年度会計を閉めます）

■お問い合わせ先：事務局　東京家政大学　家政学部　児童教育学科　結城　孝雄
〒173－8602　東京都板橋区加賀1－18－1東京家政大学　9号館
TEL+FAX　03－3961－5594（研究室直通）
E-mail　takaoyuki@icloud.com

■平成27年度　定時総会　予告■

巻頭ページでもご案内いたしましたように、第５回定時総会を平成27年４月19日（日）に開催いたします。多数ご出席いただきますよう、宜しくお願いいたします。定時総会終了後、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　岡田京子先生のご講演があります。

■日　時　平成27年４月19日（日）　13：30 ～ 14：30
■場　所　聖心女子大学　400番教室
東京都渋谷区広尾4-3-1（東京メトロ日比谷線広尾駅より徒歩５分）